

Ⅱ 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

佐賀大学の求める入学者

佐賀大学は、学生と緊密にコミュニケーションできる総合大学として、人格形成、専門知識・技術の修得、そして基礎から実用開発にいたるまで、能力を最大限に伸ばすことを目標に人材育成と研究活動を展開します。

佐賀大学の教育目標は、高度情報化社会で活躍できる情報基礎と専門知識を修得させること、地域文化を理解し地域に根ざした活動を行うための素養を持たせること、国際化時代にふさわしい異文化理解とコミュニケーション能力を修得させることです。

佐賀大学は、チャレンジ精神を持ち、問題を自発的に探求・解明し、社会に貢献できることを人生目標とする学生を求めています。

医 学部

求める学生像

医学部は、教育・研究・診療の三つの使命を一体として推進することによって、社会の要請に応えうる良き医療人を育成し、もって医学・看護学の発展並びに地域包括医療の向上に寄与することを基本理念とします。

【教育目的と入学後の学習に必要な能力や適性等】

医学科

医の実践において、強い生命倫理観に基づくとともに広い社会的視野の下に包括的に問題をとらえ、その解決を科学的・創造的に行うような医師を育成します。そのためのカリキュラム編成と本カリキュラムに適應するために必要な入学時の能力や適性等および入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組みは以下の通りです。

カリキュラム編成	カリキュラムに適應するために必要な入学時の能力や適性等
教養教育科目	自然科学と技術の分野、文化の分野及び現代社会の分野に関する基礎的な知識を修得するために、専門に関する特定の教科や科目に留まらない幅広い知識や考え方を身につけておくとともに、外国語科目(英語)を履修するための基本的な英語の学習力が必要です。
インターフェース科目	現代社会の諸問題との接続を意識した問題発見能力や解決能力を修得するために、現代的な課題や事象に対する興味・関心だけでなく、学生同士のグループ学習やプレゼンテーションなどを含むアクティブ・ラーニングを積極的に行っていくための主体的な行動力や学習態度が必要です。
専門基礎科目	高い倫理観と豊かな人間性を育むことを目標とした総合人間学(倫理、心理、法制、福祉、生活支援など)の授業科目で構成されるため、高等学校までに修得すべき幅広い教科・科目の知識と技能が不可欠です。
基礎医学科目	医学に必要な基礎的知識と技能を学ぶ授業科目(細胞生物学、発生学、解剖学、生理学、生化学、微生物学、免疫学、病理学、薬理学、遺伝医学)で構成されるため、高等学校で履修する数学、理科、英語に関する基礎的理解と応用力が不可欠です。
機能・系統別 PBL 科目	疾病とそのメカニズムに関する総合的な内容を人体の機能・系統別に学習する授業科目で構成され、知識の修得とともに、自己学習の習慣を身につけ、科学的論理的思考に基づいた問題解決に努めることを目標として少人数グループの問題解決型学習方式で実施するため、積極的に議論へ参加する態度や、周囲とのコミュニケーションを通じて、学習活動を活性化できるような能力や姿勢を持っていることが必要です。
臨床実習	医学部附属病院と地域の医療機関との連携の下、医学の知識・技術ならびに医師としての実践能力を修得するとともに、地域社会における医療の意義を理解し、医師の責務への自覚を培うキャリア教育の場として、またチーム医療の一員として他者と共感して良い人間関係を作る実践の場として実施する実習科目であるため、学んだことを実践に生かす能力や姿勢とともに、協調性やコミュニケーションを通じてチーム医療の一員として学習できる態度、姿勢および行動力を持っていることが必要です。

〈入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み〉

医学は、生命科学を中心に自然科学のあらゆる分野が密接に関連しているとともに、人間を対象とする人文・社会科学的要素が深く関わっています。そのため、高等学校で履修すべき科目を偏ることなく、幅広く習得しておくことが必要です。特に、生物・化学・物理・数学の基本的事項を充分理解し、それに基づく論理的な思考ができるようにしておく必要があります。さらに、大学の学習で用いる参考書等の理解、レポートの作成、グループ討論や発表に必要な国語力、英語力およびコミュニケーション能力を獲得していることも重要です。また、医学への志を確かなものにするために、医学・医療をとりまく社会に目を向け、読書やボラ

ンティア活動、医療関連に携わる先輩との交流などの取組みを通じて、自身の将来像を自ら考える積極的な姿勢が望めます。

上記のことに加え、自らの学習活動や取組みなどを通して、周囲の学生にも良い刺激をもたらすことで、本学科の教育・研究活動を活性化できる「主体的に学ぶ態度」を持った学生を歓迎します。

看護学科

高い倫理観に基づき健康についての問題を包括的にとらえ、柔軟に解決する実践能力を持った看護職者を育成します。そのためのカリキュラム編成と本カリキュラムに適応するために必要な入学時の能力や適性等および入学志願者に求める高等学校等での学習の取組みは以下の通りです。

カリキュラム編成	カリキュラムに適応するために必要な入学時の能力や適性等
教養教育科目	自然、文化、社会に関する基礎的な知識を修得するために、専門に関する特定の教科や科目に留まらない幅広い知識や考え方を身に付けておくとともに、外国語科目（英語）を履修するための基本的な英語の学習力が必要です。
インターフェース科目	現代社会の諸問題との接続を意識した問題発見能力や解決能力を修得するために、現代的な課題や事象に対する興味・関心だけでなく、学生同士のグループ学習やプレゼンテーションなどを含むアクティブ・ラーニングを積極的に行っていくための主体的な行動力や学習態度が必要です。
専門基礎科目	看護学に必要な基礎的な知識として人体の構造と機能及び病態・疾病と治療を学ぶ授業科目と、関連領域の基礎的理解（看護倫理、栄養学）や専門的技術を学ぶ授業科目（看護英語、キャリアデザイン、看護研究入門など）で構成されるため、高等学校で履修する数学、理科に関する基礎的理解と応用力に加え、他の教科・科目に関する幅広い知識と技能が不可欠です。
看護専門科目	看護についての専門的な知識・技能に関する総合的な内容を系統的に学修する授業科目で構成し、知識の修得とともに、自己学習の習慣を身につけ、科学的論理的思考に基づいた問題解決に努めることを目標として実践演習型学習や少人数グループ学習を取り入れ実施するため、積極的に議論へ参加する態度や、周囲とのコミュニケーションを通じて、学習活動を活性化できるような能力や姿勢を持っていることが不可欠です。
臨地実習	看護学の知識・技術ならびに看護職者としての実践能力を修得するとともに、地域社会に要請されている医療における看護の意義を理解し、看護職者の責務への自覚を培うキャリア教育の場として、チーム医療の一員として他者と共感して良い人間関係を作る実践の場として、医学部附属病院と地域の医療機関との連携の下に実施するため、学んだことを実践に生かす能力や姿勢とともに、協調性やコミュニケーションを通じてチーム医療の一員として学習できる態度、姿勢および行動力を持っていることが必要です。

〈入学志願者に求める高等学校等での学習の取組み〉

看護学は、健康な人から病をもつ人まで様々な健康レベルの人々を対象とした実践科学です。人間は身体的・精神的・社会的存在で、環境と相互作用しながら健康を維持しています。健康には、自然・人文・社会科学的要素が深く関わっているため、看護学の学習のためには、高等学校で履修すべき科目を偏ることなく、幅広く習得しておくことが必要です。看護実践の基礎となる、看護の知識と専門的技術の修得には、特に、生物・化学・物理・数学の基本的事項を理解し、論理的な思考ができるようにしておく必要があります。また、看護は人間関係を通して実施されるため、文章による意思の疎通に必要な国語力や自己・他者間の理解を共有するためのコミュニケーション能力を獲得していることも重要です。大学での学習は、看護の生涯学習の基盤となるため、国内外の社会に目を向け、読書やボランティア活動などの自己啓発の取組みを通じて、自ら考える積極的な姿勢が望めます。

入学者選抜の基本方針

各学部の教育目標・方針に沿った人材を育成するために、開放性、客観性、公平性を旨とし、以下のような多様な選抜方法と多面的・総合的な評価方法により入学者を選考します。

選抜方法	目的と概要
一般入試	入学の機会を広く保障するために、大学受験資格を有する全ての者を対象とし、「前期日程」と「後期日程」の入試区分により、入学者を選考します。
特別入試	一般入試では評価が難しい多様な能力や資質を有し、本学部への志望動機が明確で意欲的な入学希望者を対象とし、「推薦入試」、「帰国子女」、「社会人」の入試区分により、入学者を選考します。
私費外国人留学生入試	外国人留学生に対する入学の機会を保障するために、私費外国人留学生を対象とし、入学者を選考します。

入試で評価する入学後の学習に必要な能力や適性等

■医学科

- ① 高等学校で修得すべき幅広い教科・科目の知識・技能と、これらを踏まえた基本的な思考力・判断力
- ② 専門分野を理解するために必要な数学、理科に関する知識・技能と、これらを踏まえた数理的かつ科学的な思考力・判断力・表現力
- ③ 国内に限らずグローバルな視点で情報収集、情報発信できる英語の読解力と表現力
- ④ 資料等の理解力、科学的かつ論理的な思考力及び医療人としての人間性
- ⑤ 医学への志を持ち、医学・医療により社会に貢献しようという意欲と態度
- ⑥ 生命や医療に対する倫理観、コミュニケーション能力、チーム医療の一員となる上で不可欠な協調性
- ⑦ 医学・医療について学ぼうとする意欲や物事に積極的に取り組む態度
- ⑧ 佐賀県、長崎県の医療活動に貢献したいという強い意思

入学後の学習に必要な能力や適性		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	
学力3要素との対応		「知識・技能」「思考力等」				「主体性等」				
選抜方法	前期日程	センター	61	○	○					
		個別試験	23	○	○					
		面接				○	6			
		調査書	10	○	○		○			
	後期日程	センター	69	○	○					
		面接				○	20			
		自己推薦書					○			
		調査書	11	○	○		○			
	推薦入試Ⅱ	センター	58	○	○					
		小論文	○		○	10				
		面接				○	10			
		調査書・推薦書	22	○	○		○			
		自己推薦書					○			
	志願理由書 (佐賀県枠・ 長崎県枠のみ)								○	
	佐賀県推薦	センター	58	○	○					
		小論文	○		○	10				
		面接				○	11			
		推薦書					○			
調査書		21	○	○		○				
帰国子女	学力検査	67	○	○						
	面接				○	33				
	提出書類	○	○	○		○				

i. 数値は、各入試区分で評価する重み（総合点に対する各配点のウエイト [%]）

ii. ○は、間接的に評価したり、内容を確認するもの

■看護学科

- ① 高等学校で修得すべき幅広い教科・科目の知識・技能と、専門分野を理解するために必要な基本的な思考力・判断力・表現力
- ② 国内に限らずグローバルな視点で情報収集、情報発信できる英語の読解力と表現力
- ③ 資料等の理解力、科学的かつ論理的な思考力及び医療人としての人間性
- ④ 人間に関心を持ち、人々の健康と福祉に貢献しようという意欲と態度
- ⑤ 生命や医療に対する倫理観、コミュニケーション能力、チーム医療の一員となる上で不可欠な協調性
- ⑥ 看護学・医療について学ぼうとする意欲や物事に積極的に取り組む態度
- ⑦ 看護職に夢を持ち、理想とする看護職者を目指す意思

入学後の学習に必要な能力や適性		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	
学力3要素との対応		「知識・技能」「思考力等」			「主体性等」				
選抜方法	前期日程	センター	71	○					
		小論文	11		○				
		面接			○	7			
		調査書	11	○		○			
	後期日程	センター	68	○					
		面接			○	21			
		自己推薦書				○			
		調査書	11	○		○			
	推薦入試Ⅰ	小論文	○	○	40				
		面接				30			
		調査書・推薦書	30			○			
		自己推薦書				○			
	社会人	小論文	○	○	77				
		面接			○	23			

- i. 数値は、各入試区分で評価する重み（総合点に対する各配点のウエイト [%]）
ii. ○は、間接的に評価したり、内容を確認するもの